

2015年3月23日

主にある教会の兄弟姉妹の皆さまへ

沖縄キリスト教協議会常議委員会

議長 上原 榮正

…沖縄キリスト教協議会(OCC)は、「辺野古新基地は絶対に阻止されねばならない。」の声明文を作成しました。ぜひともお読みいただき、これを覚えて祈っていただければ幸いです。…

主にある兄弟姉妹の教会の皆さまに、主にある平和をお祈りいたします。

もうすぐ復活祭の日を迎えようとしています。今、皆さまの教会は、受難週に向け、またイースターに向け、忙しくしながらも、主の復活を心待ちにし、喜びのうちに準備をしておられることと思います。

今年は戦後70周年を迎えますが、私たち沖縄キリスト教協議会(OCC)常議委員は、沖縄の緊迫したこの時期において、声明文を作成いたしました。今、日本政府は普天間飛行場の危険性除去という名のもとで、新基地建設のために、辺野古の海の埋め立て工事を始めました。沖縄県民の80%が反対し抗議している中、着々と工事が進められ、反対する県民は、県警、海上保安庁、米軍の警備員などによって、排除、拘束、恫喝などを受け、自由な発言や行動ができない状況にあります。

この状況の中、私たちは、沖縄及び全国の教会の兄弟姉妹たちと一緒に、沖縄にあるこの問題について共に考え、祈りを共にしたいと願い、声明文を送ることに致しました。皆さま、どうか声明文をお読みくださり、主にある教会として、同じ信仰者として、今の沖縄の状況にどのように関わるべきか、兄弟姉妹と共に、考えて、祈っていただきたいと思います。

神さまは、常に、イスラエルの民に、孤児、寡婦、異邦人に対して、手を大きく開くようにと教えました。また、イエスさまは、小さいもの、弱いもの、貧しくされた人々に手を差し伸べ、「良きサマリア人のたとえ話」では困っている人こそ、あなたの隣人であり、その人々を愛するようにと教えました。

日本政府の今のやり方は、分断と統治です。しかも、力や、権力を持っている側が、何も持たない沖縄県民の無抵抗の抗議に対して、圧力を加えております。正義はどこにあるのでしょうか。平和は誰のためにあるのでしょうか。お金や権力や力を持つ者の権利や利益を守るための、基地や軍隊になってはいないのでしょうか。このことを共に考えてみませんか。神さまは、聖書は、私たちにどのようにして関わるべきかを尋ねておられると思います。

主にあって。